

進学先

岡山大学

農学部

梅本 昊汰さん

海南高校

生徒会 会長、科学部



志望校や志望学部、推薦を考えたのはいつ頃ですか。

梅本: 祖母の家がけっこう田舎のほうにあるということもあって、昔から自然に対する親近感がありました。自然とか農業とか興味のあることを調べていく中で大学の農学部に行くとそういうことが学べる、とわかって。推薦を考え始めたのは高3になってすぐのタイミング。もともとは神戸大を目指していたけど、高3の夏休みぐらいから、厳しいなって思い始めて。いろいろ調べた結果、岡山大学の推薦を受けてみようと思えました。3年間の評定は4.9でした。

最初から推薦と考えていたわけではない中で、定期テストに対するモチベーションは？

梅本: 自分の中ではずっと保険を持っておきたくて。何に対しても余裕なくなるタイプなので。ヤバいと思ったら一つのことしかできなくなってしまうので、入試でも余裕を持っておきたかったんです。いろんな入試方式がある中で、推薦から受けていく、というのが自分の中では保険でした。評定は、最終使えるかどうかは分からないけど使えるかもしれないから取っておこう、という感じでやってました。定期テストでいい点をとるとというのがとりあえずの目標で。定期テストは基本的には習ったことから出るので、自分の中でラインは最低でも8割と考えていました。テスト勉強を本格的に始めるのは1週間前でした。でも、4プロ(4プロセス<数研出版/教科書傍

用問題集・学校教材)はアカデミーの授業や小テスト、提出もあったので、その都度進めていました。学校では授業が始まる前に前回どんなことを習ったかなって見たりもして、数学や理科は授業中に理解できていたと思います。結果的に普通の授業を大事にできていたのかもしれないです。

高1・高2の勉強の進め方は？

梅本: 高2の夏までは定期テストの勉強しかしてなかったです。普段は部活を頑張って、テスト期間になったら勉強という感じでした。高2の夏休みにちょっとだけ勉強しようかなって気になったんです。でも、学校では周りは誰もやってなくて…。そんな中で自分だけやるというのがちょっと苦痛で。周りの目が気になるというか(笑)。だから、やり始めようとはしたけど結局だらだらしてしまいました。で、本気でやり始めたのは高2の学年末テストが終わってから。アカデミーでは桐蔭とか向陽の友達はずでにやっている。それを見て、自分もやろう!と思いました。



2年連続参加の「高校生サミット※」について教えてください。

※「地域課題解決に取り組む高校生サミット～兵庫から日本を考える～瀬戸内海を環境を考える高校生フォーラム」(主催:兵庫県立尼崎小田高等学校)

<令和6年度>

海南高校は「和歌山県沿岸の海浜砂に見られる現生底生有孔虫～有孔虫と海岸の魅力を伝えよう!～」というテーマで研究発表を実施

梅本: 科学部での活動がきっかけで参加しました。科学部で研究していた「有孔虫」についての発表をできることになって。自分たちの研究を発表するだけでなく、他の学校のポスター発表を聞いたり、里山の保全について課題点や解決策をグループで話し合ったり。サミットに参加したことで、自分の中で何か変わった気がしました。いろいろなプログラムに参加できたし、グループディスカッションも楽しかった。そのおかげで他の学校とも交流できた。まだ漠然としているけど、将来、環境保全に貢献したい、そこで大学で学んだことを活かせるらいいなと考えるようになりました。

生徒会長も務めた生徒会活動はどうでしたか？

梅本: 個人的には表舞台に立つよりも運営や裏方の仕事をしたい性格なんです。海南高校は生徒会活動が盛んで。この校則を変えようとかそういう活動だけじゃなくて、文化祭や体育祭などの学校行事は全部生徒会で企画したり準備したりして。忙しかったですけど生徒主体です

ることが多かったので、入ってよかったなと思います。行事が終わるまでは忙しいんですけど、テスト発表は行事が終わって1・2週間後だったから勉強と両立できないって苦労することはなかったです。

高校生活はどうでしたか？

梅本: 僕の高校生活は、本当に人に恵まれていたなと思います。同級生だけでなく先輩も後輩も。部活動を通して他の学校の友達もできました。海南高校に行ってよかったなって思います。でも、自分は、どちらかという流されやすい周りの目を気にしちゃうタイプで。自分の中で定期テストの目標は8割、それを当たり前と思ってやってきたから、6割なら「60点"しか"ない」共テ模試でも「600点"しか"ない」なんです。それでも校内順位で見ると上位で。アカデミーでは「高2の夏から受験勉強を」と言われていたので、やり始めたら学校では「すごいな〜」って言われる。だから、勉強面では、自慢に聞こえてしまわないかな、他の人を否定することになっていないかなって気にしすぎてしまうことも時々あって、難しいこともありました。



Academy Campusのことについて教えてください。

梅本: 高1・高2はハイレベルクラス(ACクラスライブ授業)で英語・数学を受けました。そもそも学校の授業でも海南高校より桐蔭や向陽の方が進度が速い。さらに塾ではそのスピードよりも速いペースでどんどん進んでいく。だから別の次元でしたね、アカデミーの授業は(笑)。それについていくのはしんどかったです。でも、勉強が嫌いではなくて。感覚的な話になってしまうんですけど、学ぶのは苦痛ではなく、学んだことを自分の中に落とし込めない理解できないということが苦痛。ハイレベルクラスの授業をうまく落とし込めていたとは言いきれないけど、それなりに理解しながらずっと続けました。そのおかげで、「知っている状態」で学校の授業を受けることができました。だから、テスト勉強も2、3回やっただけで、だいたいこんな感じねって理解できました。あと、アカデミーの授業はシンプルに楽しかったです。合間に雑談を入れてくれたりするので、カチッとした授業ばかりじゃなくて、けっこうカジュアル寄りっていうか。柔らかい雰囲気だったので楽しかったです。あと、ハイレベル英語のハイレベル杯は特におもしろかったです。単純な英語の知識だけじゃなくてひら

めきとかも必要で。本当の意味の学力だったり、教養も身につけて。すごく楽しかったですね。うわ！できた！っていう分かった時の快感が。ハイレベルクラスは、海南生は自分一人で、周りにできる子が多かった、という環境も自分にとってはよかったです。当たり前レベルが違ったので、自分もそのレベルまで上げる！とずっと思っていました。他の高校の友達もできたし。

サテライン(代ゼミサテライン講座)では、西川先生の英語と斎藤先生の数学を。西川先生の授業(西川彰一 講師(English Links))は、文法も英作文も長文も先生の言うことさえやればいけるっていうシンプルな授業だったので、すごく受けやすかったです。斎藤先生の数学(斎藤裕介 講師(ハイレベル国公立大理系数学))は問題が難しかった！完答までは程遠い！うまくいって問3まで解けるかどうか、っていうぐらいで。全く解けなかったら面白くないと思うんですけど、ちょっと解けるから「あー、もうちょっと頑張ったらいけるんじゃないか」という感じでどんどんやりたくなる。この授業を選んで正解だったなって思います。ひとつ残念だったのは、別解は自分で見ておいてねというスタンスだったこと。授業が楽しかったので、別解も知りたい！ヒントだけでも！と思いました。

あと、アカデミーには勉強のことや価値観などを一緒に頑張って高めることのできるライバルがたくさんいたっていうことが個人的に一番良かったです。自分のモチベーションにもつながりました。塾の授業について行くのはしんどかったけど、それでもくじけずに続けられたのは、受験勉強と一緒に頑張る友達がアカデミーにいたからだと思います。

受験生活を振り返って。

梅本: 人生で一番賢くなれたと思います。学力だけじゃなくて、頭の回転とかそういうのも含

めて。それでも、しんどかったっていうのはどうしても出てくるので、めっちゃ良かったとは言えないですけど。「努力して勉強したら絶対合格できる」という保証があればモチベーションも保てるんだろうなと思うんですけど。勉強中は賢くなってるような感覚もないし。周りには「グンって点数が上がるよ」と言われたけど、実際に上がるまでは、本当なんかな？とか思うし。先が見えない、志望校に近づいているのかも分からないっていう状態で。そんなことを思いながらだったから、受験勉強はしんどいの方が勝ってかもしれないです。受験勉強を頑張っただけでよかったとは思いますが、もう一回やりたいとは思わないです！もう十分です(笑)

後輩へのアドバイスをお願いします。

梅本: 自分の反省も踏まえて、「人の目は気にしないで」と思います。志望校を早く決めて、切磋琢磨できる友達と一緒に目標に向かって頑張りたいです。僕の場合は、勉強の計画を立てずにやみくもに進めてしまっていて。高3になって本格的に受験勉強をやり始める時にやっと計画を立てたら、本番までの時間が思ったより短いということに気づいて、あれ？ちょっと危うい？ってなりました。高2の夏からちゃんと計画を。基礎を完成させて発展にとりかかる、二次対策はいつ頃から始めて、共テの演習はこの時期から、って決めてたら焦らずに済んだだろうし、ちゃんとしないっていう使命感もあったと思うから「計画立てる」って昔の自分に言いたいです。本当にそれは後悔してます。あと、数学ではその問題の解き方だけを覚えるような勉強法じゃなくて、なぜこの問題をこう考えるのかって考えながら解くっていうか。そうすれば応用が利くということに気づいたのが高3の夏休みだったからもう遅かった。基礎からその考え方でやっておけばもっと楽だったのって思いました。

インタビューを終えて

梅本君は高1の4月からハイレベルクラスで頑張ってくれました。周りに同じ高校の仲間がいない環境で、しかも学校より数倍速いカリキュラムだったため、続けられるか心配していましたが、粘り強く取り組んでくれました。高2の頃には科学部や生徒会活動で毎日疲れている様子も見られましたが、弱音を吐くことなく努力を続けていました。高校時代に身につけた一番の力は、やはり「忍耐力」だったのではないかと思います。大学でもその強みを存分に発揮してほしいと思っています。

また、梅本君が岡山大学の推薦入試を出願した後、面接練習をする機会がありました。大学生になったら、高校時代に知り合った他府県の仲間たちと里山の保全活動をしたいという話を



聞き、目を輝かせて夢を語る姿がとても印象的でした。きっと充実した大学生活になるだろうと強く感じたことを覚えています。ぜひ、さまざまなことに挑戦し、良い経験をたくさん積んでほしいと思います。

大学合格、本当におめでとうございます。素晴らしい大学生活になることを心から祈っています。